

第1節

まちづくりの主役である

「ひとづくり」

- 子育て
- 教育
- スポーツ・文化
- 男女共同参画・平和・人権

(1) 子育て ～子どもの成長を育むまち～

ア 一人ひとりの育ちを大切に作る環境づくり

施策の概要

子どもたちの健やかな成長，発達を支援する環境づくり，放課後の子どもの居場所づくりに取り組みました。

施策の成果

こども発達支援センターは，保育所・保護者・保健師などとの連携に努め，発達に課題のある子どもたちの早期支援体制の充実を図りました。

また，放課後の居場所づくりを通じて，子どもたちの安全・安心が確保され，地域住民との交流も図られました。

施設整備では，十日市こども集会所及び神杉こども集会所の整備など，定員枠の拡大に努めるとともに，子どもが健やかに成長できる環境の充実を図りました。

事務事業の実施状況

■ こども発達支援センター事業（子育て・女性支援部）

健診などで発達面に心配のある乳幼児を早期に発見し，専門職員による発達相談や適切な療育指導が受けられる支援施設として，こども発達支援センター「すまいる」を開設しています。

日常生活への適応などについて，早期の支援を行う療育教室では，楽しい遊びを取り入れ，小集団の中で心身の発達を促すとともに，保護者が子どもへの理解と認識を深め，子育ての不安を軽減できるように支援を行いました。

また，保育の中での発達支援の充実をめざし，専門講師による保育所巡回相談を行いました。さらに，保育士・保健師などの専門職を対象にした研修会を開催し，発達障害への対応などについて理解を深めスキルアップを図りました。

■ 放課後子ども教室事業（子育て・女性支援部）

小学校1年生から6年生を対象として，放課後や夏休みなどの学校休業日に，勉強やスポーツ・地域住民との交流活動などを行い，子どもたちが心豊かで健やかに育まれる場として，放課後子ども教室を開設しています。

市内9ヶ所（河内・粟屋・布野・安田・作木・川地・青河・田幸・川西）で，住民自治組織などへ運営を委託して行い，地域住民が直接子どもたちに関わることで地元で根付いた活動となりました。

各教室では，工作教室やスポーツ活動など個性的な学習プログラムも行われ，子どもたちの可能性が広がる取組が行われています。

■ 放課後児童健全育成事業（子育て・女性支援部）

保護者が就労などにより昼間留守にする家庭の小学校1年生から6年生までの児童を対象として，放課後や土曜日，春，夏，冬休みなどの学校休業日に，家庭に代わる生活の場として，遊びを中心とした活動を行う放課後児童クラブの運営を行い，子どもたちの心身ともに健全な育成を図りました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

施設整備では、平成29年7月に十日市こども集会所、平成30年3月に神杉こども集会所を整備したほか、平成29年9月から八次地区及び酒河放課後児童クラブの受入施設を増設し、受入枠を拡大するなど、安全で安心な放課後の子どもの居場所づくりに努めました。

＜放課後児童クラブの年間利用児童数＞

（単位：人）

放課後児童クラブ名	定員	児童数
三次小学校放課後児童クラブ	65	61
十日市第1放課後児童クラブ	30	31
十日市第2放課後児童クラブ	20	24
十日市第3放課後児童クラブ	45	40
十日市第4放課後児童クラブ	30	25
神杉小学校放課後児童クラブ	20	19
酒河放課後児童クラブ	50	47
八次第1放課後児童クラブ	45	40
八次第2放課後児童クラブ	40	40
八次第3放課後児童クラブ	15	19
八次第4放課後児童クラブ	45	42
八次ふれあい放課後児童クラブ	40	46
和田放課後児童クラブ	35	26
吉舎放課後児童クラブ	35	23
三良坂放課後児童クラブ	40	17
三和小学校放課後児童クラブ	35	23
甲奴放課後児童クラブ	40	11
ちゅうおう放課後児童クラブ	55	54
計	685	588

＜小規模型放課後児童クラブ事業補助金交付対象クラブ＞

2ヶ所（君田・八幡）

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども発達支援 センター事業	24,778	国県支出金 158	24,620	開設日数 243日 利用延人数 2,360人
放課後子ども教 室事業	22,887	国県支出金 7,863	15,024	9ヶ所 加入者 138人
放課後児童健全 育成事業	149,608	国県支出金 65,339 その他 24,776	59,493	放課後児童クラブ (公営17ヶ所,委託1ヶ所) 利用者数 588人 小規模型放課後児童クラブ 事業補助金交付(2ヶ所) 利用者数 27人
十日市こども集 会所整備事業	123,243	国県支出金 57,508 起債 63,200	2,535	監理, 工事, 備品購入など
神杉こども集 会所整備事業	38,508	国県支出金 22,500 起債 14,500	1,508	設計監理, 工事, 備品購入 など
計	359,024	255,844	103,180	

イ 子育てしやすい家庭環境づくり

施策の概要

誰もが安心して産み育てることのできる総合的な子育て支援として、妊娠から出産、育児にかかる費用について助成し、経済的負担や子育てに対する不安感の軽減に取り組みました。また、多様な育児・保育ニーズに対応したサービスの充実を図り、子育てと仕事の両立をめざして、総合的な子育て支援体制の整備に取り組みました。

三次市健康づくり推進計画の母子保健分野として、新たに「三次市母子保健計画」を策定し、妊娠前から妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援体制の構築に取り組みました。

施策の成果

医療費助成のほか保育利用料などの負担軽減制度や、子どもの年齢に応じた様々な子育て支援策の実施など、子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりを進めました。

子育てと仕事の両立を支援するために、延長保育や病児・病後児保育などに加え、保護者から要望のあった土曜日午後保育を拡充するなど、様々な保育サービスを提供するとともに、保育環境の充実のために保育所の施設改修等を行いました。

また、待機児童の解消及び子どもの安全で安心な保育の推進のため、神杉保育所建設、十日市保育所0歳児保育室などの整備を行いました。

新たに不妊検査・一般不妊治療費助成事業を行い不妊治療の負担軽減の拡充に取り組みました。

また、妊娠から子育てまで切れ目ない相談支援として、母子保健コーディネーター（保健師・助産師）を配置するとともに、産婦人科医、小児科医、精神科医等による母子保健推進連絡会議を開催し、医療機関との連携強化と相談体制の充実を図りました。



母子保健コーディネーターによる相談

事務事業の実施状況

■ こども医療費助成事業（子育て・女性支援部）

18歳までの子どもに対して医療費助成を行いました。子どもの疾病の早期発見及び治療を促し、健やかな育成を図るとともに、子育て世代の経済的な負担の軽減につなげました。

■ 妊産婦健康診査助成事業（福祉保健部）

妊産婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図るため、妊婦一般健康診査検査券（1回）、妊婦一般健康診査（14回）、子宮頸がん検診（1回）、クラミジア検査（1回）、妊婦歯科健診（1回）、産婦健診（1回）の費用を助成しました。

産前から産後までのほぼ全ての定期健康診査において補助を行い、妊娠や出産にかかる経済的負担を軽減するとともに、妊産婦の健康管理の充実を図りました。また、妊娠届の早期提出につながっています。

■ 不妊・不育治療費助成事業（福祉保健部）

特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）・不育治療費助成事業に加え、新たに不妊検査・一般不妊治療に要する費用に対し、県助成額を除いた費用の全額を助成し、経済的負担の軽減を図ることにより、安心して治療を受けることができる環境づくりや子どもを産みやすい環境の拡充に努めました。

■ 乳幼児等予防接種費用助成事業（福祉保健部）

1歳から小学校就学前までの幼児を対象に、「おたふくかぜ」の任意の予防接種に要する費用の一部を市独自で助成し、経済的負担の軽減と罹患予防を図りました。

また、平成28年10月からB型肝炎ワクチンが定期接種化されたことから、感染すると発症する危険性が高いとされる定期接種対象外の4歳未満の乳幼児に対し、B型肝炎ワクチンの任意接種費用を助成しました。

■ 多子世帯保育利用料（保育料）軽減制度（子育て・女性支援部）

保育所・幼稚園・認可外保育所に通う第2子目の保育利用料（保育料）を半額、第3子目以降の保育利用料（保育料）を無料にし、多子世帯の保護者の経済的な負担軽減を図りました。

■ 地域子育て支援センター運営事業（子育て・女性支援部）

公営3ヶ所、民営4ヶ所の地域子育て支援センターを拠点として、子育て相談、遊びの場の提供、子育て講座などを行いました。

また、北部地域の交流の場として、布野町で週1回「北部あそびの広場」を開設し、子育てミニイベントや子育てに関する相談などを行いました。

10月に開催した「三次市子育て支援センター合同イベント」は、商業施設のオープンスペースで開催し、各地域子育て支援センターの特色を活かした遊びの提供やPR活動を行うなど、幅広い世代に向けて地域子育て支援センター事業の周知を図りました。

地域の子育て支援の拠点として、子育て情報の提供や子育て中の親子の交流を図るとともに、子育てに関する相談や援助を行うなど、子育て中の親や地域の子育て力の向上に努めました。

■ こどもの室内遊び場運営事業（子育て・女性支援部）

室内で木のおもちゃに触れて、親子で遊べる施設として平成29年4月に開設した「三次市こどもの室内遊び場（愛称：みよし 森のポケット）」では、年間約45,000人の利用がありました。子育て世代の親子等に対し、おもちゃを通じて共感や絆を深めるために、年齢に合わせた「遊び」を推進しました。



みよし 森のポケット

■ みよし運動公園等整備事業（建設部）

みよし運動公園では、憩いの広場内に、平成24年度から平成26年度までの3年計画で大型遊具、水遊び場、シェルター、水飲み・手足洗い場などを有する「みよしあそびの王国」を整備しました。平成27年度から平成30年度までの4年間でスケートボード等の競技人口の増加を促進するとともに、若者を中心とした交流人口の増加による定住促進の効果を期待して、ニュースポーツ施設を整備する計画です。平成28年度は調整池を多目的調整池として改修し、スケートボードや自転車のBMXなどを楽しめる中国地方最大規模のスケートパークを整備しました。平成29年度は自転車専用のトライアルパークを整備しました。平成30年度は野球の壁投げ等を想定したスポーツウォールを整備する予定です。

尾道松江線開通による効果も相まって、公園全体では年間約333,000人（みよしあそびの王国では約151,000人）の利用がありました。平成28年度との比較では、公園全体では約6,000人の増加、みよしあそびの王国では約15,000人の増加となっています。

子育て世代の活発な交流をはじめ、ニュースポーツによる新たな魅力創出、広島三次ワイナリーや奥田元宋・小由女美術館、トレッタみよしなどの広域的集客力のある周辺施設との相乗効果により、経済効果、交流人口の増加などが見込まれます。



スケートパーク（写真奥）と
トライアルパーク（写真手前）

トライアルパーク

■ 保育の充実（子育て・女性支援部）

保護者の就労や疾病などにより保育を必要とする児童に対し、多様な保育ニーズに対応した保育を行いました。養護と教育が一体となった保育を進め、健康で豊かな人間性を持った子どもの育成に努めました。

平成29年度から全保育所の児童を対象に6保育所を受入保育所として、土曜日午後保育を開始し、土曜日に就労などやむを得ない事情で保育が必要な家庭の支援体制を整えました。

また、安心して預けられる保育所とするため、神杉保育所の建設や十日市保育所0歳児保育室の整備のほか、川地保育所リフレッシュ工事や愛光保育所高圧受変電設備工事などの施設整備を行いました。その他、施設の衛生面や利便性の向上のための環境改善などに取り組みました。

■ 保育所規模適正化推進計画の実施（子育て・女性支援部）

子どもの発達過程において、3歳以上の保育については集団保育が望まれますが、一部地域においては入所児童数が著しく減少し、年齢別の集団保育が実施できない状況にあるため、三次市立保育所規模適正化推進計画（後期）に基づき、安田保育所を休所し吉舎保育所と統合しました。統合にあたっては、保護者や地域と協議を重ね、不安の払しょくに努めました。

これにより、集団保育の保障を図るとともに、保育士の確保が有限である中、保育士と子どもの

関わりの度合いを全体的に最適なものにしていくため、保育士一人当りの児童数の平準化を図りました。

また、食べ物を通して五感の発達を促進するなどの食育の推進や、発達段階に応じたきめ細かな配慮を行うために自園給食が果たす役割が大きいことから、吉舎保育所に安全で安心な自園給食施設を整備し、食育環境の向上を図りました。

■ 病児・病後児保育事業（子育て・女性支援部）

病児・病後児保育室「すくすく」を市立三次中央病院内に、病後児保育室「おひさま」を酒屋保育所内にそれぞれ開設し、病気の回復期に至らない時期からの児童の看護及び保育を行い、保護者の子育てと仕事の両立に向けて支援しました。

■ 風しん予防接種（任意）費用助成事業（福祉保健部）

先天性風しん症候群の発生を予防するため、風しん抗体価が十分でないと確認できた産婦及び妊娠を希望する女性、妊婦と同居する家族に対し、風しん予防接種費用を助成しました。

■ 学びの支援活動推進事業（子育て・女性支援部）

子どもたちの基礎学力の定着・向上を支援するため、学習指導に取り組んだ住民自治組織に対し補助金を交付し、子どもの学びの支援を行いました。

■ ひとり親家庭等自立応援プロジェクト事業（子育て・女性支援部）

経済的に支援を必要とするひとり親家庭などの学び・仕事・住まい・生活を応援するため、ひとり親家庭等入学支度金支給事業、ひとり親家庭等家賃補助事業を行うとともにひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業や、ひとり親家庭等スポーツ観戦・文化鑑賞事業を行い、ひとり親家庭などの自立を支援しました。

■ 女性・子育て相談支援センター事業（子育て・女性支援部）

DV（ドメスティック・バイオレンス）など女性の困りごと、子育ての悩み、ひとり親家庭の支援に関することなど、どこに相談したらよいかわからない相談などに専門の相談員が応じ、庁内及び関係機関と連携を図りながら、問題解決に向けたサポートを行いました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども医療費助成事業	147,380	国県支出金 26,222	121,158	対象者 7,649人
妊産婦健康診査助成事業	28,999		28,999	受診実人数 362人 妊婦健診受診延人数 5,082人 産婦健診受診件数 283件
妊婦歯科健康診査事業	499		499	受診実人数 145人
不妊治療費助成事業、不育治療費助成事業、不妊検査・一般不妊治療費助成事業	16,055	その他 6,055	10,000	不妊治療申請延件数 55件 不妊検査・一般不妊治療申請延件数 30件 不育治療申請件数 1件 妊娠届出件数 20件
乳幼児等予防接種費用助成事業	9,174	その他 9,174		おたふくかぜ 393件 B型肝炎 1,363件
多子世帯保育利用料軽減制度	126,722		126,722	対象者 500人
多子世帯保育料軽減補助金	20,621		20,621	対象施設 8施設 (幼稚園3, 認可外保育所5) 対象者 146人
地域子育て支援センター運営事業	48,078	国県支出金 32,484	15,594	年間延利用者数(親子総数) (公営)酒屋地域子育て支援センター 4,827人 (公営)三良坂地域子育て支援センター 4,307人 (公営)あそび工房 5,525人 (民営)みゆき保育園地域子育て支援センター 1,225人 (民営)ちゅうおう憩いの森地域子育て支援センター 1,853人 (民営)子育てフリースペース KADOYA 1,001人 (民営)あいあいキッズ三次 8,824人
こどもの室内遊び場運営事業	16,492	その他 8,747	7,745	利用者数 44,760人

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など	
		特 定 財 源	一般財源		
みよし運動公園等整備事業(トライアルパーク及び東側駐車場整備)	71,517	国県支出金 起債	33,000 38,400	117	・トライアルパーク整備工事 面積 約 1,400 m ² ・東側駐車場整備工事 駐車台数 48 台
保育の充実	1,878,148	国県支出金 その他	248,630 244,863	1,384,655	定員 1,957 人 (公立 1,677 人, 私立 280 人) 月平均児童数 1,494 人 (公立 1,181 人, 私立 313 人)
0歳児保育室整備事業 《下段：繰越明許分》	2,423			2,423	十日市保育所 監理, 整備工事, 備品購入等
	45,384	起債	45,300	84	
神杉保育所整備事業 《下段：繰越明許分》	471,507	国県支出金 起債	12,362 452,200	6,945	設計監理, 建設工事等, 備品購入等
	42,923	起債	42,900	23	
吉舎保育所自園給食施設整備事業	64,698	起債	61,000	3,698	設計監理, 改修工事, 備品購入等
川地保育所リフレッシュ整備事業	22,680	起債	22,400	280	設計監理, 工事
愛光保育所高圧受変電設備改修事業	8,974	起債	8,900	74	設計監理, 工事
病児・病後児保育事業	8,420	国県支出金 その他	6,599 321	1,500	病児・病後児保育室すくすく 開設日数 242 日 延べ利用者数 165 人 病後児保育室おひさま 開設日数 293 日 延べ利用者数 19 人
風しん予防接種費用助成事業	57			57	申請件数 15 件
学びの支援活動推進事業	409			409	補助件数 2 件
ひとり親家庭等入学支度金支給事業	2,640			2,640	高等学校等 67 人 大学等 26 人
ひとり親家庭等家賃補助事業	6,747			6,747	補助人数 85 人

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
ひとり親家庭等 高等職業訓練促 進費給付事業	3,750	国県支出金 2,070	1,680	給付件数 3件
ひとり親家庭等 スポーツ観戦・文 化鑑賞事業	199	その他 198	1	カーブ観戦 ※台風のため中止 サンフレッチェ観戦 4世帯 12人 JT サンダース応援隊バスツ アー 4世帯 12人 平原綾香ライブ WITH 平原ま ことコンサート 6世帯 17人
女性・子育て相談 支援センター事 業	8,766	国県支出金 3,269	5,497	婦人相談件数 300件 (実人数71人) (うちDV相談185件, 実人数35人) 児童家庭相談 603件 (実人数162人) 母子父子自立支援相談 336件(実人数285人)
計	3,053,262	1,305,094	1,748,168	

ウ 子育てを地域で支える環境づくり

施策の概要

市全体の子育て力の向上をめざし、子育てを地域全体で支援するという意識の醸成を図り、地域で子育てを支える環境づくりに向けて、事業を行いました。

施策の成果

地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりに努め、子育て中の親や地域の子育て力の向上を図ることができました。引き続き、子どもたちと地域とのつながりを深める取組を推進します。

事務事業の実施状況

■ 子育てサポート事業（子育て・女性支援部）

子育て中の保護者の負担軽減を図るため、子育てを支援してほしい「おねがい会員」と子育てを支援したい「まかせて会員」による相互支援活動を市が仲介し、地域ぐるみでの子育てネットワークを支援しました。

まかせて会員を増やし確実な支援を行うための講習会や、会員間の信頼関係を深め、相互支援活動の質の向上を図るための交流会を合わせて4回開催しました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子育てサポート事業	3,675	国県支出金 1,777	1,898	活動件数 833 件 活動時間数 2,453 時間 会員数 944 人 (うち まかせて会員 190 人, おねがい会員 657 人, 両方会員 97 人)
計	3,675	1,777	1,898	

(2) 教育 ～ふるさとが子どもを育て、子どもがふるさとを誇りにできるまち～

ア ふるさと三次を愛し、未来を創造する力を育む教育の推進

施策の概要

市費教員や学校支援員の配置により、個に応じた学習指導や支援、ALT（外国語指導助手）を活用した実践的なコミュニケーション能力の育成に取り組みました。

施策の成果

少人数指導によるきめ細かい指導により、基礎的・基本的な学習内容の定着が図られてきており、生徒指導上の問題も減少傾向にあります。

事務事業の実施状況

■ 特別支援教育推進事業（教育委員会）

三次市こども応援センター教育相談員による就学相談や、県・市などの関係機関との連携により、適正な就学指導の支援体制の構築を図りました。また、就学指導委員会を計画的に開催し、幼児・児童・生徒の教育的ニーズに応じた就学の実現に取り組みました。

各小中学校において、障害のある児童生徒の教育的ニーズを把握し、ニーズに応じた適切な指導及び支援が図られるよう、特別支援教育の専門家を派遣し、特別支援に関する指導を行う特別支援教育巡回相談を行いました。

さらに、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの専門性の更なる向上を図るために、特別支援教育の専門家を招へいし、特別支援教育研修会を開催し、個に応じた指導の充実を図りました。

■ 学校支援員（教員）配置事業（教育委員会）

校長が必要とする教育活動の補助を目的として学校支援員（教員）を配置し、学校における教育活動を充実させ、児童生徒の支援に努めました。

18校に25人の学校支援員を配置しました。具体的には、通常の学級に在籍し、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などにより、生活及び学習上の困難を有する児童生徒に対し、学習活動における指導の援助及び学校生活を営む上での援助を行いました。また、いじめ、不登校、暴力行為、授業妨害など課題のある児童生徒が在籍する学級に対する支援、放課後や長期休業中の学習支援、担任をはじめ教員の教務事務補助などを行い、学校での教育活動の充実を図りました。

■ 小中学校外国語教育推進事業（教育委員会）

異文化を理解し尊重する態度の育成や英語によるコミュニケーション能力の更なる向上をめざし、ALT12人を小中学校に配置し、全小学校の1年生以上の児童生徒を対象として、英語活動を行いました。

また、小学校外国語活動と中学校外国語科を円滑に接続した外国語教育の充実を図るため、中学校の外国語科担当者及び小学校外国語活動担当者を対象に、授業改善に向けた研修を行いました。

■ 【子ども夢・未来塾】イングリッシュキャンプ（教育委員会）

英語に興味をもち、グローバルな視点をもって主体的に他者とコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をめざし、小学校5年生から中学3年生を対象とし、ALTと様々な体験活動を楽しむことができる「イングリッシュキャンプ」を行いました。中学生は7月、小学生は12月に行い、合計72人の子どもたちが参加し、意欲的に英語でコミュニケーションを図りました。

■ 【子ども夢・未来塾】子どもの体力充実事業（教育委員会）

子どもたちに、正しい走り方についての指導を通して、体力の向上とこれからの社会をたくましく生き抜く力を育成することを目的に「子どもの体力充実事業（走力アップ教室）」を行いました。平成29年10月18日に、みよし運動公園陸上競技場において、ロンドンオリンピック女子100mハードルに出場した木村文子選手を招き、走力アップ教室を開催し、市内小学生61人が参加しました。トップアスリートによる直接指導を通して、児童に「走る」運動への動機づけを図るとともに、夢を実現していくことの大切さについて考えさせることができました。

■ がんばる中学生の英語学習応援事業（教育委員会）

英語技能検定（英検）の受検機会の拡大による中学生の英語力や学習意欲の向上を図ることを目的に、英語検定料の全額補助を行いました。補助対象は、三次市立中学校に在籍する生徒の保護者で、4級以上の検定料を全額補助しました。4級以上に合格し、年度内に上位の級を受検する生徒に限り複数回の補助を行いました。この事業を活用して、542人の生徒が英検にチャレンジしました。

■ 学力ぐんぐん事業（教育委員会）

児童生徒の学力向上を目的として、小学校においては少人数学級編制や少人数授業、中学校においては少人数習熟度別授業などを行い、指導方法の工夫改善ときめ細やかな指導を進めました。

小学校では9人（うち初任者指導講師1人）、理科支援教員3人、中学校では数学科5人（うち講師1人）、外国語科6人（うち講師2人）の計23人の教員を市費により任用し、配置しました。

各種学力調査において、基礎的・基本的な内容の定着が、概ね図られています。

■ 学力到達度検査事業（教育委員会）

学校における課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図るため、市独自に全小中学校で学力到達度検査を行いました。小学校1・2年生では国語・算数、小学校3年生から小学校6年生までは国語・社会・算数・理科、中学校では国語・社会・数学・理科・英語について行いました。検査実施後には、各学校で結果を分析し、個々の児童生徒の課題に対して、当該学年の中で確実に解決を図るよう補充指導などを行いました。

また、4月に小学校6年生と中学校3年生を対象とした全国学力・学習状況調査（国）、6月に小学校5年生と中学校2年生を対象とした「基礎・基本」定着状況調査（県）がそれぞれ行われました。各調査実施後には、授業改善や個々の児童生徒に応じた具体的な指導のあり方についての改善計画を各学校で作成し、学力向上につながる指導法の改善に取り組みました。

■ （新）みよし版わくわく体験活動推進事業（教育委員会）

児童の豊かな心の育成を図ることを目的とし、三次市内の小学生（5年生）が、日常と異なる環境での生活（集団生活）を体験したり、自分たちが生活している三次において、地域の自然・文化・歴史に触れ、地域の方々と交流したりすることを通して、児童の自立心や主体性を育てるとともに

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

ふるさと三次のよさを実感させる取組を行っています。

三次市教育大綱にある「ふるさと三次が子どもを育て、子どもがふるさとを愛し、誇りに思い、夢を実現する『地域とともにある学校』づくり」を具現化する取組の一つで、原則3泊4日の長期宿泊体験を実施することとしています。

児童意識調査「三次市には、じまんでできることや所がたくさんあると思う。」の設問に対し、91.5%（実施前）→93.5%（実施後）と肯定的に答える児童の割合は増加しています。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
特別支援教育推進事業	36,619		36,619	特別支援教育研修会参加者数 102人 生活介助が必要な児童生徒数 54人
学校支援員（教員）配置事業	43,581		43,581	支援対象児童生徒数 184人
小中学校外国語教育推進事業	57,672	その他 32,175	25,497	<ul style="list-style-type: none"> 三次市学力到達度検査での英語の平均正答率 全国平均正答率 +3.3ポイント（中1） +1.5ポイント（中2） 小学校1～4年生の英語活動の実施率 100%
「子ども夢・未来塾」イングリッシュキャンプ・子どもの体力充実事業	1,244		1,244	【イングリッシュキャンプ】 <ul style="list-style-type: none"> 参加者 小学校32人 中学校40人 参加者満足度 小学校 平均100% 中学校 平均98% 【子どもの体力充実事業】 <ul style="list-style-type: none"> 参加者 小学校5年生29人 小学校6年生32人 計61人 参加学校数 小学校3校 走力アップ教室に参加しタイムが向上した児童の割合 66%
学力ぐんぐん事業	72,314		72,314	三次市学力到達度検査における市平均正答率 全国平均正答率 +4ポイント
がんばる中学生の英語学習応援事業【英語検定料補助】	2,044		2,044	補助人数 542人
学力到達度検査事業	8,259		8,259	三次市学力到達度検査における市平均正答率 全国平均正答率 +4ポイント
みよし版わくわく体験活動推進事業	2,963		2,963	長期集団宿泊活動を行う学校数 100%
計	224,696	32,175	192,521	

イ 学校・家庭・地域の協働による教育力の向上と補完機能の強化

施策の概要

学校・家庭・地域が協働して地域の将来を担う子どもたちを大切に育てる小中一貫教育を推進しました。また、子どもたちの可能性を最大限に伸ばし、地域に誇りと愛着を持ちつつ、グローバル化する世界で活躍できる人材を育成しています。

さらに、学校・家庭・地域をつなぐパイプ役を担う社会教育委員が平成 27 年度に作成した「三次の子育て 5 か条」のリーフレットの配布やポスターの掲示、平成 29 年度には「わが家の 1 か条」募集など、家庭の教育力の向上を図る啓発活動を行いました。

施策の成果

みよし教育フェスタを開催し、中学校区での取組の発信や「わが家の 1 か条」表彰のほか、学校・家庭・地域が力を合わせて子どもを育てる教育の在り方について、幅広い世代の参加者とともに考えました。

事務事業の実施状況

■ みよし教育フェスタ（教育委員会）

平成 30 年 1 月 28 日、第 4 回みよし教育フェスタを三次市民ホールきりりで開催しました。

「夢人」をテーマに、高校生トークや社会教育委員会議による「三次の子育て 5 か条『わが家の 1 か条』」の表彰、小・中学生の取組の発表、三次市在住や出身の方のパネルディスカッションを通して、学校・家庭・地域が力を合わせて取り組む「みよしの教育」について考えました。

■ 社会教育委員の活動（教育委員会）

平成 27 年度に作成した「三次の子育て 5 か条」のリーフレット配布を、小学校新 1 年生を対象に行いました。また、活用状況などの聞き取り調査を市内小中学校で行うとともに、「三次の子育て 5 か条」の継続的な活用促進策として「わが家の 1 か条」の募集を行いました。また、他団体との交流研修により「子育て教育と家庭支援のあり方」について講演会と意見交換を行いました。

■ 家庭教育の充実（教育委員会）

地域での家庭教育の充実を図るため、学校・子育て支援センターなどで出前講座などの機会を通じて「親の力」をまなび合う学習プログラムを活用し、親の役割、地域の役割についてグループ学習を行いました。計 25 回行い、延べ 327 人が参加しました。

■ 青少年育成講演会（教育委員会）

「生きる力」を育み、主体的に役割を果たすことのできる青少年を育成するため、市内中学生とその保護者を対象に青少年育成講演会「性と生を考える」を開催しました。講演会では、中学生は自分自身の身体を大切にすること、相手を思いやることを、保護者は子どもとの対話の大切さを学びました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
みよし教育フェスタ	400		400	参加者 約 500 人
青少年育成講演会	40		40	中学生とその保護者、養護 教諭を対象に講演会を実施 99 人
計	440		440	

ウ 活力と信頼の学校づくり

施策の概要

子どもたちが安全・安心に学校で学び、生活するために、生徒指導体制の確立と教育相談の一層の充実を図り、不登校対策や問題行動に迅速、適切に対応しています。

また、小中学校学習環境整備事業に先進的、積極的に取り組むなど、ソフト面・ハード面ともに、より良い教育環境の整備に努め、保護者、地域から信頼される学校運営を行いました。

施策の成果

子どもたちの教育環境の整備などを図るため、学校施設整備事業、スクール便運行事業及び児童生徒安全確保緊急メール事業を行いました。全ての小中学校で、小中学校学習環境整備事業（空調機整備工事）が完了し、夏季休業中の猛暑の中にあっても補習などで子どもたちに「基礎・基本」の定着を図ることができ、学習指導環境が大きく改善しました。

不登校傾向の児童生徒やいじめなどの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭、関係機関が連携し、不登校の解消やいじめ問題の解決に取り組みました。特に、小学校と中学校が連携を密にしたことで、中学校入学時に学校復帰できた生徒や、進路指導に取り組んだことで、進路希望をかなえることができた生徒もいました。

特色ある学校づくり創造事業を行い、それぞれの学校で創意工夫ある教育活動を推進することができました。

学校・家庭・地域が協働して小中一貫教育を推進し、中学校区全体で開かれた学校づくりを進め、児童生徒の自己肯定感の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図りました。

事務事業の実施状況

■ 学校施設整備事業（教育委員会）

小中学校学習環境整備事業として、河内小学校、栗屋小学校、八次小学校、清河小学校、神杉小学校、田幸小学校、和田小学校、川地小学校、川西小学校、甲奴小学校、小童小学校、君田小学校、布野小学校、作木小学校、吉舎小学校、安田小学校、八幡小学校、三和小学校、川地中学校、甲奴中学校、君田中学校、布野中学校、作木中学校、三良坂中学校及び三和中学校の25校で、空調機整備工事を行いました。

大規模改修として、八次中学校外トイレ改修工事、布野中学校屋外トイレ設置工事、三次小学校屋上防水工事、十日市中学校屋上防水工事、布野小学校屋上防水工事（一部繰越）を行いました。

また、神杉保育所及びこども集会所整備事業に伴う、神杉小学校プール整備工事を行いました。

さらに、学校施設の整備工事として、三次中学校擁壁改修工事、作木中学校自火報複合受信機交換工事、三和小学校児童玄関取替修繕工事、十日市小学校アスファルト修繕工事をはじめ、多数の施設整備を行いました。

これらにより、各学校の学習環境の整備を図ることができました。

■ スクール便運行事業（教育委員会）

学校統廃合に伴う遠距離通学の児童生徒（一部保育所含む。）に対して、バス・タクシーを含め24路線のスクール便を運行しました。

■ 児童生徒安全確保緊急メール事業（教育委員会）

三次市内の児童生徒の保護者に対し、不審者や災害などの発生情報を、電子メールを利用した一斉配信で速やかに伝達することにより、児童生徒の安全確保を図ることを目的に緊急メール事業を引き続き行いました。この事業において情報を伝達するのは、①不審者の発生により、児童生徒への被害のおそれがある場合、②天災（台風、暴風、洪水、大雨、大雪、地震など）による被害のおそれがある場合等です。

■ いじめ防止・不登校対策推進事業（教育委員会）

不登校傾向にある子どもの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭、関係機関が連携し、家庭訪問やカウンセリングに取り組みました。さらには、小中一貫教育の視点から、教職員を対象に、いじめの未然防止や不登校解消に向けた研修会を開催し、中1ギャップの解消、不登校の未然防止などに取り組みました。

また、三次市こども応援センターや適応指導教室においては、教育相談員や青少年指導相談員を中心に相談体制の充実を図り、各学校においては、いじめを許さない風土づくり、早期発見、早期対応に努めました。

■ 特色ある学校づくり創造事業（教育委員会）

「活力と信頼のある学校づくり」の実現をめざして各学校が独自に創意工夫したオンリーワンの特色ある学校づくりを推進するため、学校独自の豊かな教育内容の創造及び教育活動を支援しました。

地域や児童生徒の実態を踏まえ、各学校の実践研究を進めるとともに、広く教育研究を発信しました。

また、「みよし教育ビジョン」を踏まえて策定した「三次市小中一貫教育基本構想『学びの風土づくりプラン』」に基づき、中学校区の小中学校が、めざす目標を共有する中で協働し、継続性・発展性をもって、児童生徒の育成を図る取組を進めました。

キャリア教育を軸とした、共通の教育課程「コアカリキュラム」と、各中学校区の特色を活かした「オリジナルカリキュラム」を、全ての中学校区で行い、児童生徒の成長につながる取組を進めました。



地域の方との短歌交流（布野中学校区）



中学生（リトルティーチャー）が小学生に学習指導をする様子（川地中学校区）

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
学校施設整備事業 《下段：繰越明許分》	143,044	起債 127,800	15,244	神杉小学校プール整備工事 三次小学校屋上防水工事 十日市中学校屋上防水工事 布野小学校屋上防水工事（一部繰越） 三次中学校擁壁改修工事，作木中学校自火報複合受信機交換工事，三和小学校児童玄関取替修繕工事，十日市小学校アスファルト修繕工事ほか
	405,632	国県支出金 88,702 起債 316,900	30	小中学校学習環境整備事業 （河内小学校，粟屋小学校，八次小学校，清河小学校，神杉小学校，田幸小学校，和田小学校，川地小学校，川西小学校，甲奴小学校，小童小学校，君田小学校，布野小学校，作木小学校，吉舎小学校，安田小学校，八幡小学校，三和小学校，川地中学校，甲奴中学校，君田中学校，布野中学校，作木中学校，三良坂中学校，三和中学校） 八次中学校外トイレ改修工事 布野中学校屋外トイレ設置工事
スクール便運行事業	109,774	国県支出金 2,375	107,399	路線数 24 路線 利用者数 291 人
児童生徒安全確保 緊急メール事業	590		590	保護者の加入状況 98.3%
いじめ防止・不登校 対策推進事業	16,330		16,330	「学校は楽しい」と、肯定的に答えている児童生徒の割合 85%以上 （平成 29 年度 88%）
特色ある学校づくり 創造事業	9,276	その他 7,735	1,541	三次市学力到達度検査における市平均正答率 全国平均正答率 +4 点 以上
計	684,646	543,512	141,134	

(3) スポーツ・文化 ～学びたい気持ちを応援するまち～

ア “スポーツのまちみよし” の実現

施策の概要

「いきいき健康日本一のまち」の取組と連動した、市民誰もがスポーツを楽しめる環境づくり、スポーツ施設を活用した合宿や大会の誘致、また、指導者の育成を行う中で、競技力向上や交流人口の増加をめざしました。

施策の成果

チャレンジデーを通して、住民自治組織、学校、企業や、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体と連携し、スポーツを通じた一体感の醸成と、ライフステージに応じたスポーツの実施、スポーツによる健康づくりといった意識の向上という効果が得られました。また、スポーツ推進委員による自主事業や研修も実施されるなど、指導者の資質向上をめざした取組も展開されました。さらには、大会やイベントも継続して開催され、市民のスポーツへの関心度や活力向上が得られました。スポーツ合宿の誘致についても、積極的な誘致活動により利用件数が増加しました。

事務事業の実施状況

■ チャレンジデー2017事業（地域振興部）

住民自治組織、企業、団体、各学校などと連携して、市民総参加型の事業として取り組みました。参加率は前年度より20.8ポイント増と、前年度を大きく上回り、56.6%となりました。

住民自治組織や三次工業団地自治会など様々な団体に出向いての積極的なPRと参加依頼の強化に加え、当日は大型商業施設での「お買い物ウォーキング」や、各団体等において積極的な取組が行われました。

■ 三次市スポーツ推進委員協議会自主事業（地域振興部）

三次市スポーツ推進委員としての資質向上を目的に、「事業部会」、「広報部会」、「研修部会」の3つの専門部会を組織し、「ウォークラリー」の開催や「ノルディックウォーキング」の講習会の実施、さらには、三次市スポーツ推進委員協議会として初の会報誌を発行しました。



ウォークラリーの様子

■ 広島ガスバドミントン部の三次合宿（地域振興部）

本市において、3月5日～3月9日の間、県立みよし公園にて、バドミントン・日本リーグ所属の、広島ガスバドミントン部による強化合宿が実現しました。

今回は、強化合宿ということで、児童・生徒との交流はできませんでしたが、今後の交流の中で、バドミントンに対する関心を高めるとともに、新たな競技人口の増加が期待できます。



広島ガスバドミントン部の皆さん

■ 各種スポーツ大会の開催（地域振興部）

江の川親水マラソンや三次駅伝競走大会をはじめ、三次市体育協会やスポーツ少年団、市内各地域が行う市民の体力づくりの取組や市民が進んで参加できる多種多様なスポーツ大会を支援しました。このことにより、参加機会の拡大と市民スポーツ活動の振興につなげることができました。

京都で行われる全国大会への出場をかけた広島県高等学校駅伝競走大会では、男子の部 50 チーム、女子の部 36 チーム（男女あわせて約 550 人）が、みよし運動公園付設駅伝コースを疾走しました。

大会に向けた市民の皆さんの協力によるコースの整備や当日の沿道での声援など、秋の三次の一大イベントとして盛り上がりました。

区 分	内 容	参加者数
スポーツ大会	名称 第 29 回江の川親水マラソン 月日 平成 29 年 4 月 2 日	435 人
	名称 第 64 回三次駅伝競走大会 月日 平成 29 年 10 月 15 日	男子：37 チーム 女子：15 チーム 参加者：362 人
	名称 男子 68 回・女子 34 回 広島県高等学校駅伝競走大会 月日 平成 29 年 11 月 5 日	男子：50 チーム 女子：36 チーム
	名称 県民体育大会出場	198 人
スポーツイベント	名称 三次市チャレンジデー2017 月日 平成 29 年 5 月 31 日	30,512 人 参加率 56.6%
スポーツ・文化芸術報償	名称 世界大会・全国大会出場	世界大会 2 人 全国大会 77 人 全国大会 1 団体

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市チャレンジ デー2017	300		300	30,512人 参加率 56.6%
第29回江の川親 水マラソン	300		300	435人
第64回三次駅伝 競走大会	600		600	男子：37チーム 女子：15チーム 参加者：362人
男子68回・女子 34回広島県高等 学校駅伝競走大会	2,000		2,000	男子：50チーム 女子：36チーム
スポーツ審判員等 育成支援	111		111	講習会 46人 資格取得支援 2団体
県民体育大会出場	278		278	198人
世界大会・全国大会 出場	850		850	世界大会 2人 全国大会 77人 全国大会 1団体
計	4,439		4,439	

イ スポーツを通じて子どもの夢を応援！

施策の概要

プロスポーツの試合の観戦やプロ選手を招いてのスポーツ教室の開催など、あこがれのトップアスリートと身近に接し、指導を受けることで、技術の向上だけでなく、スポーツに対する関心を高め、夢をもって前向きに進んでいく子どもを育てます。

施策の成果

プロ選手によるスポーツ教室では、技術指導だけでなく、トップアスリートと身近に接することで、スポーツに対する意識がより高揚しました。また、プロスポーツ観戦ツアーでは、ハイレベルの技術を目の当たりにする中で、子どもたちは感動を覚え、自分の夢を育むきっかけとなりました。

事務事業の実施状況

■ 「トップアスリートによるスポーツ教室」の開催支援（地域振興部）

広島東洋カープやJT サンダース、広島ガスバドミントン部の選手・コーチによるスポーツ教室の他、アンジュヴィオレ広島のコーチによる年間を通しての女子サッカースクールの開催を支援し、子どもたちがより高度な技術を修得できる機会を設けました。スポーツ少年団や中学生の子どもたちがトップアスリートから指導を受け、競技力の向上と意識の高揚が図られました。



トップアスリートによるスポーツ教室

■ 2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致事業（政策部）

＜情報発信の取組＞

「PRパンフレット」（日本語版、英語版、フランス語版、スペイン語版）や、（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の「事前トレーニング（キャンプ）候補地ガイド」（専用ホームページ）により、事前合宿誘致の情報発信を行いました。

＜事前合宿誘致活動の取組＞

本市は、県内市町でいち早く、事前合宿誘致・受入の組織として、「2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致三次市実行委員会」を設置しました。平成29年5月25日、広島県とメキシコオリンピック委員会による事前合宿に関する基本協定が締結され、同年8月に、三次市は、陸上と野球の2競技について事前合宿地としての決定を受けました。



メキシコ選手団役員による視察

また、同年11月には、メキシコオリンピック委員会とメキシコ陸上連盟の役員による視察を受け入れ、合宿実施に関する基本的な内容について合意確認書を交わし、平成30年8月から9月にかけて、三次市で強化合宿を実施することが決定しました。

＜機運醸成の取組＞

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運の醸成を図るとともに、三次市がメキシコ選手団の事前合宿地としての決定を受けたことを市民に広く周知するために、市役所などへの合宿決定懸垂幕や横断幕、広報用品（ポスターなど）の設置や、広報みよしへの記事掲載などを行いました。



メキシコ選手団役員による視察



メキシコ合宿広報用品（ポスターなど）

＜パラリンピックへの取組＞

事前合宿が受入可能な競技（陸上、車椅子バスケットボール）の情報発信を行うとともに、2020年東京パラリンピックへの出場をめざす白砂匠庸選手の支援と人材活用を通して、障害者スポーツの理解と普及を進めていくことから、平成30年2月26日に、所属先事業所（あいおいニッセイ同和損害保険株式会社広島支店三次支社）と連携協定を締結しました。



連携協定の締結式

■ オリンピックメダリスト・世界大会出場選手による陸上教室（政策部、地域振興部）

2020年東京オリンピックの事前合宿地として、メキシコの陸上と野球の2種目が決定を受け、ジュニア層への陸上競技の普及と指導を行うことを目的に、オリンピックや世界大会に出場したトップアスリートを招聘した陸上競技教室を開催しました。

小学生の部では楽しく陸上に親しむことを中心に、中・高校生の部では、「短距離」・「走り幅跳び」・「ハードル」の3分野で実践的な指導が行われ、参加した児童・生徒は大きな成果を得ました。



トップアスリートによる陸上教室

■ インドハイデラバード市とのバドミントン交流（地域振興部）

三次市とインドハイデラバード市が、友好都市となって10年が経過したことをきっかけに、オリンピック代表選手である、シュワラ・グッタさんを迎え、広島ガスバドミントン部の協力のもと、

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

バドミントンの指導を受けることができる機会を設けました。

これが契機となり、広島ガスバドミントン部との新たな交流がスタートしました。



インドハイデラバード市とのバドミントン交流
(県立みよし公園)

■ 「三次市民プロスポーツ応援事業」の開催支援（地域振興部）

市民を対象とした、サンフレッチェ広島及び JT サンダーズの応援隊バスツアーを行いました。サンフレッチェ広島への応援 111 人、JTサンダーズへの応援 64 人が、エディオンスタジアム広島及び広島県立総合体育館へ応援隊として参加しました。多くの子どもたちが参加し、トップアスリートの華麗な技に触れ、スポーツに対する夢を膨らませました。

また、みよし運動公園陸上競技場において、女子サッカーリーグ公式戦を開催し、909 人のアンジュヴィオレ広島応援隊が観戦に訪れました。



女子サッカー公式戦開催
(みよし運動公園陸上競技場)



三次市民サンフレッチェ広島応援隊
(エディオンスタジアム広島)

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
2020年東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致	2,598		2,598	事前合宿決定 メキシコ (陸上, 野球)
JT サンダース交流事業バレーボール教室	155	その他 109	46	参加者 47人
君田夢のバレーボール教室	200	その他 200		参加者 162人
三次市野球教室 in きみた	280	その他 280		参加者 約110人
オリンピックメダリスト・世界大会出場選手による陸上教室	1,375	その他 1,375		参加者 34人
三次地区女子サッカープロジェクト	553	その他 552	1	参加者 約500人
三次市バドミントン交流事業	486		486	参加者 51人
三次市民アンジュヴィオレ広島応援隊	462		462	観客数 909人
三次市民サンフレッチェ広島応援隊バスツアー	595		595	参加者 111人
三次市民JTサンダース応援隊バスツアー	448		448	参加者 64人
計	7,152	2,516	4,636	

ウ 三次の文化・芸術の発展継承と創造

施策の概要

文化の創造と発信の拠点である三次市民ホールきりりにおいて、市内の学校や文化団体の発表会をはじめ、著名なアーティストによる最高級の舞台芸術に至るまで、様々なジャンルの公演を行いました。子ども文化芸術ふれあい事業では、子どもたちが本物の芸術を鑑賞できる機会を提供しました。

また、奥田元宋・小由女美術館を核とし、はらみちを美術館、美術館あーとあい・きさ及び三良坂平和美術館の4館で連携を図りながら、美術館事業を展開しました。インバウンド需要が高まる中、国内外からの来館者の誘致に積極的に取り組み、他施設と連携した広報活動を展開しました。

スポーツ・文化の新たな事業を展開するため、スポーツ・文化みよし夢基金の運用益を活用し、2件の事業に補助金を交付しました。

三次の子どもたちの健やかで心豊かな成長を願う真田一幸さんの寄附を財源として、創設した「真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」では、子どもを対象としたスポーツ・文化団体に対する補助金の交付や、スポーツや文化を通して子どもたちの活動を支援するために用具の購入を行いました。

施策の成果

三次市民ホールにおける自主事業は、市民の意見を反映させるため、市民代表者、指定管理者、専門的ノウハウを有する者及び行政関係者の4者による「三次市民ホール事業運営委員会」が行っています。事業のジャンルや演目などは、専門的ノウハウを有する市民ホール企画支援業務受託者からの企画提案や、同者からのアドバイスを受けて決定しました。また、市民ホールのボランティアサポーター「きりり倶楽部」に、自主事業などの運営支援を受けました。子ども文化芸術ふれあい事業では、市民ホールで開催した広島交響楽団やニッセイ名作シリーズへの小中学生の招待公演やみよし伝統文化・芸能フェスティバルなどを行いました。

奥田元宋・小由女美術館では、常設展に加え、年間7回の企画展を開催しました。夏休みには子ども向け企画展の開催を、広島県立歴史民俗資料館及び三次商工会議所と連携して行いました。

企画展の関連事業として、大人向け・子ども向けのワークショップやイベントを行い、学校連携・地域連携を推進しました。市民が育てる美術館として、サポートメンバーの募集やボランティアの育成を引き続き行いました。

文化施設において市民に質の高い事業を継続的に提供することにより、市民が芸術文化への関心を深め、サポートボランティアとして積極的に活動を行うことができました。

事務事業の実施状況

■ 美術館の運営とネットワーク事業（教育委員会）

美術館の運営は、4館とも指定管理者制度を導入し、効率的な管理・運営を行いました。各館の個性を活かした常設展や魅力的な企画展、ロビーコンサートなどのイベントが行われました。

美術館の入館者は、奥田元宋・小由女美術館が54,412人、はらみちを美術館は8,586人、美術館あーとあい・きさは5,571人、三良坂平和美術館は8,548人でした。

■ 魅力あるみよしスポーツ・文化振興事業の展開（教育委員会）

スポーツ・文化みよし夢基金の運用益を財源の核として、スポーツ・文化の新たな事業を展開するため、次の事業に対しスポーツ・文化振興事業補助金を交付しました。

なお、事業の採択については、スポーツ・文化振興事業検討委員会（委員5人）において、交付

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

の適否について審議しました。

＜スポーツ・文化振興事業＞

（単位：千円）

事業名	主催者	日程・会場	事業内容	事業費	内補助金額
コンサート「赤い靴」	フラウエンコール布野 三次コールフリージア	平成 29 年 12 月 10 日 三次市民ホールきりり	二つの合唱団の初めての ジョイントコンサート	1,052	167
インドネシア伝統民族音楽団 ハナ☆ジョス&コンチョコンチヨ ガムランのコンサートとワヤンクリ（影絵芝居）	NPO法人 三次おやこ劇場	◆ワークショップ 平成 30 年 1 月 26 日 みよしまちづくりセンター ペペラホール ◆ガムランのコンサートとワヤンクリ（影絵芝居）上演 平成 30 年 2 月 28 日 みよしまちづくりセンター ペペラホール	◆ワークショップ インドネシア文化のおはなしとインドネシアの楽器「アングルン」の演奏体験 ◆ガムランのコンサートとワヤンクリ（影絵芝居）上演 ジャワ島に伝わる芸能「ガムラン音楽」と「影絵劇ワヤン」の上演	305	151
計	2 件			1,357	318

■ 真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業（教育委員会）

子どもを対象としたスポーツ・文化の振興及び育成を図るため、73 団体に真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金を交付しました。

また、子ども神楽団などの子ども伝統文化団体、スポーツクラブにスポーツ・文化活動で使用する用具を購入しました。

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金＞

（単位：千円）

団体種別	補助対象活動	件数（件）	補助金額
スポーツ系	団体運営	59	5,043
	大会等開催	9	763
文化系	団体運営	4	381
	大会等開催	1	100
計		73	6,287

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業用具整備＞

(単位：千円)

用具種別	品名等	件数(件)	購入金額
スポーツ系	卓球台	1	480
文化系	ピアノ専用椅子, 神楽衣装, 法被, 帯, 鉢巻, アスワンカーペット, 銭太鼓のバチ	16	1,883
計		17	2,363

■ 三次市民ホール自主事業支援事業（教育委員会）

三次市民ホールの自主事業として、「松竹大歌舞伎『中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露』」, 「開運 なんでも鑑定団 in 三次」をはじめ, 来場者が夏季に比べて少ない冬季には「第1回三次市神楽共演大会」「第1回三次名人会(林家木久扇ほか)」「八代亜紀プレミアムコンサート」など, 多様なジャンルの舞台公演を開催し, 市内外からの大勢の観客を集めました。さらに, 「みよし KIRIRI 児童合唱団」の活動支援, 「人形劇団きりり劇団」の活動支援, 「まちのつたえかたプロジェクト『三次のCMをつくろう(ワークショップ全3回)』」, 「体験型コンサート『音楽で話そう』」, 「第2回避難訓練コンサート『劇場で大地震と火災が発生したら! ~安心してご利用できるホールをめざして~』」など, 市民参加・育成型の事業も行いました。入館者数は72,416人(うち大ホールは41,423人)でした。イベント時の入館者に対する案内役として市民ホール運営サポーター「きりり倶楽部」によるボランティア活動(参加者数延べ281人)が展開されました。また, 「きりり倶楽部」主催の「ティーブレイクコンサート(計4回)」, 「クラシック楽楽ゼミナール(全3回)」が開催されました。



松竹大歌舞伎『中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露』



子ども文化芸術ふれあい事業 広島交響楽団

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市民ホール 自主事業支援事業	24,663		24,663	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ収録「開運 なんでも鑑定団 in 三次」 780人 ・ティーブレイク アンコールコンサート 485人 ・松竹大歌舞伎「中村芝雀改め五代目中村雀右衛門襲名披露」 2公演 1,218人 ・リージョナルシアター 4回 延80人 ・プラスト!ミュージック・オブ・ディズニー 930人 ・名曲アルバムコンサート 337人 ・大型人形劇「三国志」 215人 ・パペットシアター「マチルダ」 89人 ・ウィンナー・ワルツ・オーケストラ～ 宮殿祝賀コンサート～ 285人 ・陸上自衛隊第13音楽隊 with きりり 第2回避難訓練コンサート 694人 ・マイハート・コンサート 229人 ・佐々木リョウ 弾き語り自走 TOUR2018 ～ツアーファイナル広島 公演～ 544人 ・第1回三次市神楽共演大会 1,157人 ・第1回三次名人会 893人 ・八代亜紀プレミアムコンサート 2公演 1,138人 ・みよしKIRIRI 児童合唱団育成事業 (第2回定期演奏会) 209人 ・市民ホール運営サポーター「きりり倶 楽部」育成事業(ティーブレイクコン サート) 4回 372人 ・クラシック楽々ゼミナール 3回 延240人
計	24,663		24,663	

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

■ 子ども文化芸術ふれあい事業（教育委員会）

平成 28 年度に「スポーツ・文化みよし夢基金」を財源に本事業を創設し、「小・中学生芸術鑑賞事業」として、広島交響楽団オーケストラ音楽鑑賞教室、ニッセイ名作シリーズ「ムーミン谷の夏まつり」、「三次きらきらコンサート（三次市吹奏楽演奏会）」、「第 11 回みよし伝統文化・芸能フェスティバル」などを開催し、市内の小・中学生を中心に芸術に親しむ機会を提供しました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子ども文化芸術 ふれあい事業	7,072	その他 7,071	1	○小・中学生芸術鑑賞事業 4,193 人 ・広島交響楽団オーケストラ音楽鑑賞 教室 1,873 人 ・ニッセイ名作シリーズ「ムーミン谷 の夏まつり」 1,946 人 ・市内美術館等の見学鑑賞 374 人 ○三次きらきらコンサート （三次市吹奏楽演奏会） 約 520 人 ○第 11 回みよし伝統文化・芸能フェ スティバル 約 600 人
計	7,072	7,071	1	

■ 文化施設の整備（教育委員会）

新市まちづくり計画フォロー事業であるみわ文化センター増築等整備事業を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
みわ文化センター 増築等整備事業	29,612	その他 29,600	12	木造平屋建 131.66 m ² 工事 28,619 千円 施工監理 993 千円
計	29,612	29,600	12	

エ 歴史・伝統・文化の継承と発展

施策の概要

文化財は、地域の歴史や文化などを正しく理解し、これからのまちづくりを考えるための基礎となる貴重なものです。その文化財を守り、伝えることで、地域に誇りをもって生活できるようになることをめざし、事業に取り組みました。

施策の成果

指定文化財の保存のため、広島県重要文化財の修理を行いました。また、文化財について広く知っていただくために看板を設置するとともに、小冊子を作成し、市内の小学校を中心に配布しました。

辻村寿三郎人形館展示支援事業では、年間2回の企画展を開催し、県内外から多くの来館者にお越しいただき、本市ゆかりの作家の芸術を発信しました。

史跡寺町廃寺跡整備事業については、関係機関と協議し、事業計画を整理しました。また、平成30年度の発掘調査に向けた準備を進めました。

地域の歴史や文化に触れる機会の提供、知的好奇心をくすぐるような観光資源・観光地としての活用に向け取組を進めました。

事務事業の実施状況

■ 文化財調査事業（教育委員会）

道路の整備や土地の造成など開発事業の際には、文化財の取扱いについての協議や発掘調査などを行い、埋蔵文化財の保存や記録を行いました。また、開発工事等に係る試掘・測量調査を2件行いました。

■ 文化財保護事業（教育委員会）

文化財所在地の草刈りや看板設置など、環境を整備することで、文化財を後世に残し、知的観光資源としての活用を図りました。より良い方法で文化財を残していくために、地域の協力を得ながら、国や県の機関と情報交換を行い、検討しました。

また、文化財保護委員を中心に、市内の指定文化財の現状確認や再発見を目的とした、文化財パトロールを行いました。



文化財パトロール（作木 大島第1号古墳）

■ 文化財保存事業の支援（教育委員会）

文化財を保存・継承していくために、劣化の進んでいた広島県重要文化財神輿（甲奴町小童の須佐神社）の修理を平成28年度に引き続き行い、完成後には地元により、記念事業が開催されました。また、重要文化財奥家住宅の消防設備点検と広島県史跡頼杏坪役宅の消防設備修繕の事業補助を行いました。5月には全国重文民家の集いが奥家住宅を中心に開催され、全国から国が重要文化財として指定した民家の所有者が訪問されました。

■ 文化・文化財施設案内看板の設置事業（教育委員会）

文化・文化財施設を円滑に見学してもらうため、看板（説明・解説看板 10 基と案内看板6基）を整備・修繕しました。



広島県重要文化財神輿保存修理



説明・解説看板（三良坂 田利八幡神社）

■ 文化財副読本の作成事業（教育委員会）

文化財に関する学習啓発のため、副読本として利用できる小冊子「三次市の文化財」を作成しました。シリーズ3冊目として、神楽など指定を受けている無形民俗文化財についてわかりやすくまとめ、市内小中学校に配布しました。

■ 博物館・資料館の活用事業（教育委員会）

文化財などを展示・収蔵するために、三次市歴史民俗資料館などの施設の改装や修繕を行いました。

また、資料として門田敦盛第4号古墳から出土した、柄香炉形土製品（えごうろがたどせいひん）の複製を作成しました。

■ 三次まちごとまるごと博物館事業（教育委員会）

三次藩・浅野家に関連する歴史や三次人形などの文化の残る三次地区を“まちごと”“まるごと”一つの博物館として楽しめるよう、町並みに文化財を展示し、訪れる人の心や知性が広がり深まっていく魅力あるまちづくりを進めました。

また、三次町本通りの店舗1ヶ所に展示用の棚を設置し、「稲生物怪録」の紹介や三次町の昔の写真などを展示しました。

■ （新）史跡寺町廃寺跡整備事業（教育委員会）

文化庁や広島県教育委員会文化財課との協議を行い、今後の整備スケジュールや方針について指導・助言を受けました。その後、地元で事業説明会を行い、史跡の整備に向けた概要説明などを行いました。また、市内の各文化財施設に分散していた出土品等を旧仁賀小学校校舎へ移動しました。

■ 辻村寿三郎人形展示支援事業（教育委員会）

辻村寿三郎人形館の運営をする一般社団法人 寿三郎みよしに対して補助金を交付し、企画展として「俵藤太百足退治」「新・八犬伝 伏姫」「藤原純友」が開催されました。

■ (新) 全国創作人形公募展支援事業 (教育委員会)

平成 30 年9月下旬に予定している、辻村寿三郎人形館「全国創作人形公募展」の開催に向け、実行委員会を立ち上げました。市内各所や全国の人形教室に要項を配布し、平成 30 年3月から募集を開始しました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一 般 財 源	
文化財保存事業の支援	695		695	広島県重要文化財神輿の修理(甲奴町小童 須佐神社)に対する補助金 503 千円 重要文化財奥家住宅の消防設備点検に対する補助金 19 千円 広島県史跡頼杏坪役宅の消防設備修繕に対する補助金 73 千円 平成 29 年度全国重文民家の集い開催に対する補助金 100 千円
文化・文化財施設案内看板の設置	4,585	国県支出金 1,011	3,574	説明・解説看板 10 基 案内看板 6 基
史跡寺町廃寺跡整備事業	5,073		5,073	基本計画見直し業務, 地元説明会, 関係機関協議など
辻村寿三郎人形展示支援事業	8,000		8,000	新・八犬伝 伏姫 3,659 人 藤原純友 2,871 人
全国創作人形公募展支援事業	494		494	公募展応募要項配布(約 90 ヶ所) 応募受付開始(平成 30 年 3 月)
計	18,847	1,011	17,836	

オ 学ぶ気持ちを応援する生涯学習の推進

施策の概要

受講生自身が自己実現できる講座の開催やまちづくり・地域づくりに必要な人材の発掘と育成、さらには成果を地域に還元できるよう、様々な学習機会を設けました。また、子どもたちに三次の魅力を確認してもらうため、平成28年度に続いて子どもチャレンジ講座を開催しました。図書館活動としては、ころぶっくる号（移動図書館）の運行や、ボランティアによる「お話し会」の開催など、気軽に立ち寄れる情報拠点、読書施設、知的財産の保存施設としての図書館をめざし、利用者の利便性の向上に努めました。

施策の成果

市民が三次の再発見やスキルアップを図り、また、自分らしく豊かな生活を送るための術を生涯学習講座で学び合いました。平成29年度はフィールドワークを通して、本市の歴史を身近で感じてもらえる講座を行いました。

また、図書館では適正な蔵書管理とレファレンスサービス（調べもの相談）の向上を図り、市民の文化生活に関する情報の受発信の場としての活用も拡大しています。また、ボランティアによるお話し会や、自主講座も積極的に開講し、本のメッセージカードコンクールも本に親しむことのできる事業として定着してきました。今後もより活用しやすい施設をめざして取り組んでいきます。

事務事業の実施状況

■ 民間活力を活用した講座の開講（教育委員会）

幅広い年齢層を対象に、市民ニーズに応えた様々な分野にわたる講座を開講しました。

■ 図書館活動（教育委員会）

蔵書については、各館の容量や市民ニーズを勘案し充実を図りました。また、利用促進のため、近隣市町との広域利用を行っています。ころぶっくる号の運行、全館での「お話し会」の定期開催支援や「おたのしみ教室」を開催しました。

また、保育所・小学校への定期配達による貸出や小中学校への職員派遣など、子どもの読書活動への支援を行いました。加えて、年間を通じて各館で企画した特集展示を行いました。読書通帳100冊達成表彰、受験応援しおりの配布や読書に関するクイズなどの親しみやすい取組を通して、気軽に立ち寄れる図書館をめざしています。

三次市重要文化財である「往来本」196点をデジタルアーカイブ化（資料の電子化）し、誰でも閲覧できるようになりました。それを記念し、往来物研究家である小泉吉永氏を講師に招き講演会を開催しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

<図書資料の充実>

図書館名	蔵書数（冊・点）	
	平成28年度末	平成29年度末
三次市立図書館	156,137	157,624
三次市立君田図書館	14,413	15,014
三次市立布野図書館	13,330	14,095
三次市立作木図書館	19,225	19,417
三次市立吉舎図書館	17,247	17,386
三次市立三良坂図書館	18,305	18,382
三次市立三和図書館	34,673	34,921
三次市立甲奴図書館	29,298	29,290
合計	302,628	306,129

<図書館利用状況>

図書館名	個人登録数（人）		貸出冊数（冊・点）		開館日(日)	来館者数(人)
	平成28年度末	平成29年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成29年度	平成29年度
三次市立図書館	31,696	32,517	219,036	220,672	322	146,357
三次市立君田図書館			21,511	20,152	317	5,587
三次市立布野図書館			18,823	21,174	317	5,173
三次市立作木図書館			15,820	16,407	317	5,443
三次市立吉舎図書館			24,862	23,586	317	8,247
三次市立三良坂図書館			37,450	35,801	317	11,485
三次市立三和図書館			21,906	22,725	317	6,620
三次市立甲奴図書館			18,411	19,057	317	4,331
合計	31,696	32,517	377,819	379,574	—	193,243

(単位：千円)

区分	事業費	財源内訳		成果指標など
		特定財源	一般財源	
生涯学習事業	4,000		4,000	文化振興・生涯学習事業（業務委託） 輝くあなた 302人 三次歴史塾 181人 ジュニアチャレンジ講座 249人
図書館事業	96,905		96,905	自主事業参加者（延人数） 講演会など 1,119人 本のメッセージカードコンクール 1,063人 おはなし会 1,985人
計	100,905		100,905	

カ 国際交流の推進

施策の概要

海外の姉妹・友好都市などとの国際友好親善及び国際協力推進並びに国際的な人材の育成及び市内在住外国人への支援を図るため、一般財団法人三次国際交流協会の運営を支援するとともに、連携し各種事業を推進しました。

施策の成果

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、市内在住外国人支援を含めた国際交流事業全般について、取組を推進することができました。

また、中国四川省雅安市雨城区とは、平成24年度以降交流が途絶え気味でしたが、平成29年度は友好都市提携25周年の年にあたり、相互に公式訪問を行い交流の絆を深めました。

事務事業の実施状況

■ 【国際交流推進事業】一般財団法人三次国際交流協会（地域振興部）

在住外国人が暮らしやすい環境づくりを推進するため、市内及び近郊の外国人居住者を対象とした生活相談を、通年で週に1回開催しました。言葉や生活習慣の違いから生じる各種相談が年間38件ありました。

また、「受入事業・派遣事業の支援」として、各国国際交流団体主催の国際交流事業に対して助成金を交付しました。友好都市からの訪問団を受け入れ、また友好都市を訪問し、ホームステイや学校間の交流を通じて、三次市内の子どもたちが文化、習慣などの違いを経験することで、国際感覚豊かな人材の育成を図りました。

スピーチ交流会では、市内の中学生・高校生25人が、決められたテーマをもとに英語でのスピーチを行い、英語への関心と英語力の向上を図りました。



2017スピーチ交流会



アメリカス市訪問団



カナダメイプルリッジ市訪問団

■ 【国際交流推進事業】海外派遣（地域振興部）

友好都市提携 25 周年として、中国四川省雅安市雨城区を公式訪問しました。

雅安市雨城区との交流は、平成 24 年度に、三次市で友好都市提携 20 周年記念式典を行って以降、その後、雅安市での地震発生や、国際情勢の不安定化により交流が途絶え気味になっていましたが、平成 29 年度は、相互交流を行うことができ、交流の絆を深めることができました。



友好都市提携 25 周年記念事業 中国四川省雅安市雨城区公式訪問

主催団体	事業名	事業概要
NPO法人こうぬシミー・カーターシビックセンター国際交流協会	第 26 次アメリカス市訪問団派遣事業 (平成 29 年 8 月 18 日～25 日)	派遣：29 人（うち子ども 23 人） 表敬訪問，ホームステイ，学校間交流など
	アメリカス市訪問団受入事業 (平成 29 年 5 月 29 日～6 月 3 日)	受入：13 人（うち子ども 8 人） 表敬訪問，ホームステイ，学校間交流など
三次インド交流協会	インド・バドミントン交流事業 (平成 29 年 7 月 24 日～25 日)	受入：3 人 表敬訪問，エキシビジョンマッチ，市内高校訪問など
	インド・ハイデラバード市の農業研修生受入支援事業 (平成 29 年 9 月 1 日～11 月 30 日)	受入：1 人 農業研修生受入支援
三次市日中友好協会	雅安市雨城区教育衛生訪問団受入事業 (平成 29 年 9 月 6 日～10 日)	派遣：11 人（うち子ども 5 人） 表敬訪問，ホームステイ，医療施設・高齢者福祉施設視察，学校間交流等
日加教育国際交流協会	日本・カナダ教育国際交流事業（訪問団派遣） (平成 29 年 10 月 27 日～11 月 3 日)	派遣：6 人（うち子ども 4 人） ホームステイ，学校間交流など
	日本・カナダ教育国際交流事業（訪問団受入） (平成 30 年 3 月 10 日～17 日)	受入：10 人（うち子ども 8 人） 表敬訪問，ホームステイ，学校間交流など

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
国際交流推進事業	7,179		7,179	外国人相談 38件 海外派遣(子ども) 32人 スピーチ交流会参加者 25人
計	7,179		7,179	

(4) 男女共同参画・平和・人権 ～みんなが協力してつくる、人にやさしく住みよいまち～

ア 男女がともに活躍できる環境の充実

施策の概要

三次市男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて、市民を対象とした啓発事業の実施と女性保護対策の充実を図りました。あわせて、女性の活躍推進のため、子育て支援の充実や働く場の環境の整備に向けた取組を行いました。

施策の成果

ワーク・ライフ・バランスを推進するため、祖父母として育児に関与することとなる世代を主たる対象として、産婦人科・小児科医の山縣威日さんを講師に迎え、「じいじとばあばの孫育て」講演会を7月に開催し、子育て世代への支援及び多世代への男女共同参画の意識の向上を図りました。また、男女共同参画の理解の浸透を図るため、保育所などの保護者を対象とした男女共同参画講演会講師派遣事業を実施し、男女共同参画の多様なテーマをそろえた講師を派遣しました。

事務事業の実施状況

■ 男女共同参画推進事業（子育て・女性支援部）

男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画社会の実現に向け、理解の浸透を図るため、基本計画の内容や男女共同参画推進イベント、女性活躍推進の周知など市広報をはじめ、市ホームページ、チラシなどにより、啓発に取り組みました。



講演会「じいじとばあばの孫育て」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
男女共同参画推進事業	2,891		2,891	「じいじとばあばの孫育て」講演会 参加者数 73人 男女共同参画講演会講師派遣事業 講演会参加者数 65人
計	2,891		2,891	

イ 平和を願う思いの継承と市民意識の高揚

施策の概要

被爆者や戦争体験者の高齢化に伴い、原爆と戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。そうした中で、戦争体験の継承と平和の尊さの次世代への継承、そして、恒久平和の願いを市民へ呼びかける事業を行いました。

三次市では、市民が身近なことから平和に関心を持ち、考えられるよう、広島東洋カープの協力を得て、平和の灯ろうコンテストにカープ球団選手からの平和メッセージをいただき、受賞作品とともに巡回展示を行いました。

施策の成果

戦争の悲惨さと、原爆の非人道性を語り継ぎ、恒久平和の願いを次世代に伝えるための取組は、平和の灯ろうコンテストへの応募や、平和の折り鶴の取組などの平和祈念事業に多くの市民が参加されるなど、確実に市民全体に広がっています。

また、核実験への抗議活動や、米軍の低空飛行訓練に対する中止要請は、世界恒久平和を願う市民メッセージとして発信しています。平和を願う思いが継承されるよう、啓発活動を通じて、市民一人ひとりの意識の高揚に引き続き取り組みます。

事務事業の実施状況

■ 平和推進事業（地域振興部）

広島平和記念公園に手向けられた折り鶴を活用する「折り鶴に託された思いを昇華させる取組」として、解体折り鶴を利用した「平和の灯ろうコンテスト」を行い、市内の老人福祉施設や小中学校の児童・生徒などから680点の応募がありました。広島東洋カープの選手からは、灯ろう用紙に平和のメッセージをいただき、受賞作品とともに市内巡回展示を行いました。

また、「日本非核自治体宣言協議会」（会長：長崎市長）に加盟しており、国内の自治体レベルで連携を取りながら、情報の収集や交換を行い、核兵器廃絶を訴えました。

市民から平和への思いを込めた折り鶴を募集したところ、86,960羽が寄せられ、広島平和記念公園の「原爆の子の像」に手向けました。

広島・長崎に原爆が投下された8月6日、9日には、市民に原爆犠牲者の追悼の黙とうを呼びかけ、庁舎をはじめとした公共施設において半旗の掲揚を行いました。

■ 平和祈念事業の開催（地域振興部、三良坂支所）

市民一人ひとりが平和について考え、次世代にその尊さを伝える契機の一つとして「平和のつどい MIYOSHI2017」を三良坂平和公園で開催しました。市内中学生による「三次市平和非核都市宣言」の朗読、「平和の灯ろうコンテスト」の表彰を行いました。平和の灯ろうコンテストに応募された灯ろう約1,000基が点灯される中で、市内コーラスグループや歌手の森本ケンタさんらアーティストによる平和コンサートを行い、参加者全員で平和への祈りを捧げるとともに、平和のメッセージを発信しました。



平和のつどい MIYOSHI 2017

■ 関連事業への取組（地域振興部）

市民から寄せられた米軍機低空飛行訓練目撃情報の件数は、延べ4日、8件でした。件数は減少傾向にありますが、米軍岩国基地への空母艦載機移転の影響など、今後、注視していく必要があります。「米軍機による低空飛行の騒音被害に関する関係自治体の協議会」（廿日市市、北広島町、安芸太田町、三次市）を設置し、情報共有を行うとともに、米軍機による飛行訓練等の中止要請書を連名で外務省、防衛省へ提出しました。

北方領土返還運動については、北方領土の日にあわせて関係団体とともに市内2つのショッピングセンターで街頭啓発活動を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
平和祈念事業	1,580		1,580	平和のつどい MIYOSHI2017 （8月5日 / 三良坂平和公園） 参加者 約550人 平和の灯ろうコンテスト受賞作品 巡回展示（市内12会場）
計	1,580		1,580	

ウ 「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発

施策の概要

広島法務局三次支局、三次人権擁護委員協議会などと連携を図りながら、互いの違いを共に認め合い、支え合う、「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発を行い、人権尊重のまちづくりを進めました。

施策の成果

人権週間に合わせた啓発活動や、人権講演会を通じて、「心の扉」を開いていくことを学び、人間が支え合って生きていることを実感することができました。

小中学生による作文や書などの作品制作も学校単位で取組が行われ、展示や発表の場を提供することで、本人や保護者などに自覚が芽生えています。人権尊重の普及に向けて、今後も地道な啓発活動を行います。

事務事業の実施状況

■ 「ひと・かがやきフェスタ 2017」の開催（地域振興部）

11月19日、人権週間の前段として、効果的な人権啓発事業を行うため、「みよし健康福祉まつり」と同日に、三次人権擁護委員協議会と連携して、作文発表や講演会を中心とした「ひと・かがやきフェスタ 2017」を開催しました。あわせて、市内の小中学生が人権への思いを表現した「ひと・かがやきハート絵」の展示、全国中学校人権作文コンテスト広島県大会三次地区大会における入賞作品の朗読、人権書道展、各種パネル展示（LGBT・（一社）広島県セクシャルマイノリティ協会）など幅広い内容で行いました。

モデルでタレントのIVAN（アイヴァン）さんをお招きした講演会では、「ほかの誰でもない、私。自分を愛して、私らしく。～『みんな違う・みんな同じ』社会をめざして～」と題し、性的少数者、いわゆる「LGBT」をテーマとし、中学生から現在までの男性を中心とした恋愛遍歴や、外見や立ち振る舞いが原因で受けていた学校でのいじめなどを赤裸々に語っていただきました。一人ひとりが尊重され、多様な生き方が認められる豊かな社会をつくり、「自分らしく生き、誰もがいきいきと暮らせる地域社会の形成」の必要性を感じていただくことができました。

会場の三次市福祉保健センターは、どのプログラムもたくさんの市民の参加があり、中学生の人権作文朗読や人権擁護委員の啓発劇も多くの人の前での発表となり、効果的な啓発を行うことができました。

■ 人権の花運動（地域振興部）

広島法務局三次支局及び三次人権擁護委員協議会との共催で、布野小学校、川西小学校、八幡小学校、河内小学校、十日市小学校の5校にヒヤシンス栽培セットを贈呈しました。栽培に取り組んでもらうことで、子どもの情操をより豊かにし、命の大切さや相手への思いやりという人権を尊ぶ気持ちを育むことを目的としています。栽培セットの贈呈式及び感謝状贈呈式において、児童に対して人権講話を行いました。

■ PTA人権教育講演会への補助（地域振興部）

小中学校が行うPTA人権教育講演会へ補助し、児童生徒や保護者に対する人権啓発の取組を支援しました。

■ みよし日本語教室（地域振興部）

市内在住の外国人が日常生活を営む上で必要となる日本語能力を習得できるよう、「みよし日本語教室」を開催しました。ボランティアスタッフ 10 人（登録 19 人）の協力により、受講生は 24 人（平成 29 年度末現在）で、毎週火曜日と木曜日に開催しています。誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めます。

■ 各種相談事業の充実（市民部、地域振興部）

外国人が日常生活や地域、職場において各々の個性や能力を発揮しながら活躍できる社会づくりを推進するため、外国人生活相談を毎週 1 回開設しました。また、弁護士による「市民無料法律相談」を毎月 2 回開設したほか、消費生活相談や人権相談など、市民が安心して相談できる体制の充実に努めました。

■ 女性保護対策事業（子育て・女性支援部）

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV 防止法）に基づく暴力被害女性の保護を図るため、相談員を配置して対応しました。婦人相談では、DV（ドメスティック・バイオレンス）などの深刻な問題のほか、広く女性が抱える諸問題の解決のため、相談員による面談、電話相談を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
「ひと・かがやき フェスタ 2017」 開催	575	国県支出金 296	279	開催日：11 月 19 日 場 所：三次市福祉保健センター 参加者数：約 200 人
人権の花運動	100	国県支出金 97	3	【実施校】 市内小学校 5 校 ヒヤシンス栽培セット 300 個
PTA 人権教育講 演会への補助	170		170	【実施校】 市内小学校 7 校 市内中学校 1 校
みよし日本語教室	700		700	毎週火曜日・木曜日に開催 登録ボランティアスタッフ 19 人
人権啓発事業	952	国県支出金 328	624	人権啓発パンフレット 2,400 部 三次人権擁護委員協議会負担金 三次地区保護司会補助金
各種相談事業	3,480	国県支出金 1,482	1,998	無料法律相談（月 2 回） 114 件 消費生活相談（週 4 回） 168 件 外国人生活相談（週 1 回） 38 件 生活・人権相談 86 件
【再掲】 女性保護対策事業	2,033	国県支出金 890	1,143	婦人相談件数 300 件（実人数 71 人） （うち DV 相談 185 件、実人数 35 人）
計	8,010	3,093	4,917	

